

## 青森で生きる未来人財育成事業 ボランティアチーム養成講座【第1回】

5月29日(日)14:00~15:00 県総合社会教育センターより配信 受講者143名

### 1 趣旨

この事業は、「高校生を、地域で行われる子どものための活動に派遣して異年齢交流を図り、自己肯定感や主体性を高めることを目指す。」ものです。そのため、STEP 1 と STEP 2 という段階を設定し実施しています。

STEP 1 は、オンライン講座です。県内の高校生を対象に、オンライン講座を5回実施します。ここでは、異年齢交流の意義や、コミュニケーション能力の向上についての他、レクリエーションの運営の仕方について学びます。オンライン講座として実施することで、自宅で受講ができます。

続くSTEP 2 は実践の場です。5回のうち3回のオンライン講座を受講したことでボランティアチーム員となった高校生が、自分が住んでいる地域の子どものための活動に参加します。学んだ事を生かした異年齢交流が図られることを目指しています。



### 2 内容 【講義】「ボランティアを考える」

八戸学院大学健康医療学部人間健康学科 学科長 教授 よしだ もりみ 吉田 守実 氏

### 3 講義要旨

- コロナ禍がもたらした現状と社会の変化について、地域福祉活動へのアンケート調査をもとに、コロナ禍でのボランティア活動の難しさと「新たなつながり」を考えてみましょう。
- 今日の社会が求めているボランティアの必要性は、他者とのかかわりの中から見えてきます。
- 「ボランティアの魅力」は、地域や社会をよりよくしていくことに役立つとともに、活動する自分自身も豊かにしてくれる力があります。

### 4 アンケート結果から

受講結果に満足	76%	どちらかと言えば不満	1%
どちらかと言えば満足	23%	不満	0%

(受講者の感想)

- ボランティア活動をする意味、ボランティア活動のあり方、現在の問題点やボランティアをする人の理想像など、思っていたよりも多方面からボランティア活動について考えることができました。
- ボランティアはハードルの高いものだと思って自分から積極的に参加することは今までありませんでしたが、これからはたくさんのボランティア活動に参加していこうと思いました。
- ボランティア活動が社会に貢献する方法の1つということの再認識と、社会だけでなく地域や身近にいる人、自分への貢献にもなるということに気づきました。また、現在コロナ禍により、今までとボランティア活動の在り方が変わってきていると知り、自分に何ができるか考えたいと思いました。今回のボランティア活動をする人の素敵なところや、全国制覇の条件、世界一人になる条件などをボランティア活動以外の普段の生活から参考にしたいと思いました。
- コロナ禍で地域コミュニティや助け合いが衰退している今こそ、新しい意識で地域の繋がりを考えていく必要があると感じました。ボランティア活動には、自分の生き方をより豊かにする力や人と地域を繋げる力があると思いました。そのためにもまずは、身の回りにいる様々な人と関わることから始めていきたいです。

第1回の講座では、「ボランティア活動」について様々な視点から学ぶことができました。社会がどのように進展しようとも、社会に潤いと温かさを与える活動がボランティアであり、今後のボランティア活動について意欲付けとなるような充実した内容の講座となりました。